

伊陸夢プランだより

第9号

令和2年 4月23日発行

伊陸地区コミュニティ協議会

「伊陸夢プラン」の取り組みに向けて

伊陸地区コミュニティ協議会 会長 山本 達也
伊陸夢プラン支援協議会 会長 西川 義彦

昨年の5月1日より平成から令和に元号が変わり、伊陸地区コミュニティ協議会といたしましても夢プラン実現に向け、各団体と調査・研究をスタートいたしました。

今年度は、2つの大きな柱である交通弱者対策と防災意識向上を目指し、伊陸地区社会福祉協議会と共働で、伊陸に暮らす人々のために一步ずつ動き出したところです。

昨年の秋には、公共交通に係る意見交換会が市主催で開催され、市全域における持続可能な公共交通の在り方に関する計画を進めておりますが、これから先、伊陸の高齢化率がさらに高くなり、運転免許を返納する人が増えてきたときに、伊陸住人の交通手段が、何がベストな選択なのかを検証し、他の市町の先進事例も参考にし、あらゆる対策を模索しながら、市と協議を進めて行く所存であります。

また、災害はいつ起こるかわかりません。平成30年に発生した7月豪雨災害では、伊陸地区も被害を被ったことは、皆様も記憶に新しいことと存じます。

近年、日本全体に目を向ければ、連日のように豪雨や台風といった大災害が発生し、尊い人命が奪われるなど予測ができない事態も起きております。明日は我が身という危機感を強め、伊陸で大災害が発生した場合、道路が寸断され、防災機関に頼れない可能性があるときに、「自分たちの地域は自分たちで守る」という地域住民の自主防災意識と、地域ぐるみで共助の防災活動を展開させる防災対策が急務であると考えております。

そうしたことから、伊陸地区では自主防災組織結成が急務となっており、今後は伊陸地区すべての自治会で自主防災組織が設立出来るよう、協議会といたしましても防災士の育成などに力を注ぎ、防災対策強化を進めてまいります。

伊陸夢プランのスローガン「助け合いの郷（さと）いかち」が、しっかりと根を張ってこの地に浸透しますように、皆様おひとりおひとりが安心して暮らして行けますように、なお一層の努力を重ねて参りたいと存じますので、引き続き、ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

